

<p>2006年7月号 (通巻112号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・内部統制をどう捉えるか ・シリーズ ・セクター分析 ・よくわかる経済指標 		<p>エネルギー安保と国益 日本経済～潜在成長率2%の壁～ 海外経済～スタグフレーション懸念をどう見るか～ 日米経済の現状と6ヶ月後の見通し “大トリ”日銀は“タカ”になる 円債利回り・ドル/円レートの6ヶ月見通し シリーズ 中小企業にできること・金融編 ① 2006・2007年度 日米経済見通し 民間シンクタンクの経済見通し(2006年5月) ～年度後半以降の見方がやや分かれる～ 内部統制はなぜ「内部」統制なのか ～内部統制をどう捉えるか③～ 株価形成とバブル ① 産業別利益動向 法人企業統計調査</p>
<p>2006年8月号 (通巻113号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・内部統制をどう捉えるか ・シリーズ ・セクター分析 ・よくわかる経済指標 		<p>ミドルの「遺伝子」オン 日本本経済～「失われた世代」～ 海外経済～資源国カナダの死角、通貨高の悪影響～ 日米経済の現状と6ヶ月後の見通し 原油高騰は夏の風物詩か 円債利回り・ドル/円レートの6ヶ月見通し シリーズ 中小企業にできること・金融編 ② 景気回復支えた307兆円のキャピタルゲイン ～今年4、5月の株価下落では▲58兆円を失う～ 子育て負担と経済格差 ～若年層の経済基盤の安定が少子化対策の鍵～ 「わかる化」に始まりダブルチェックに終わる ～内部統制をどう捉えるか④～ 株価形成とバブル ② 産業別利益動向 労働力調査</p>

編集後記

夏休みで海外に旅行された方も多と思う。今年の海外旅行者数はゴールデンウィークが5連休になったことや夏休み通算日数が増えた影響などもあって三年連続増加、初の1,800万人乗せが期待されていると聞いた。シニア層の余暇利用によってもより多くの人々が異国の地へと旅立っている。

長旅に一息入れて、到着したばかりのホテルの部屋から時差ぼけの目で見下ろす異国の街路。都市の息遣いに触れる気がしてなかなか心地がよい。事務所の窓、民家の庭先に人々の生活が垣間見える。そこに自分を置いて暮らしを想像してみるの楽しいが、実際に住むとなるとどうだろうか。

日本人に比べ言葉や生活習慣で国境の垣根の低い欧米ビジネスマンの場合、海外で住みたい都市もおのずと現実的な感覚で選ぶようだ。英国で発表されたあるコンサルタントによる調査では、人気が高いのはチューリッヒ、ジュネーブなどスイスの都市だった。街の規模が手ごろのうえテロの危険が少なく、自然環境に恵まれた魅力がポイントだ。国際空港へのアクセスや教育、医療環境などビジネスとプライベート両面から居を構えるうえで評価された。中東の富裕層からオイルマネーが流れ込むプライベートバンクもスイスに本拠を構えることで知られる。避暑シーズンにはバカンスと投資相談を兼ねた滞在客も多いという。

これとは別に「100万USドルで購入できる住宅面積」の各都市比較という海外紙の記事を見た。これによると東京は50㎡足らず。ロンドン、ニューヨークと並び東京の住宅価格が高い。デフレの足音が遠のくとともに街も心なしか華やかさを増してきた。しかし、東京都心の地価が底打ちしたとはいえ、一億円余りをこの面積に投じて住居を物色する彼らの「東京」とはいったいどのあたりなのだろうか。

(H. U)

